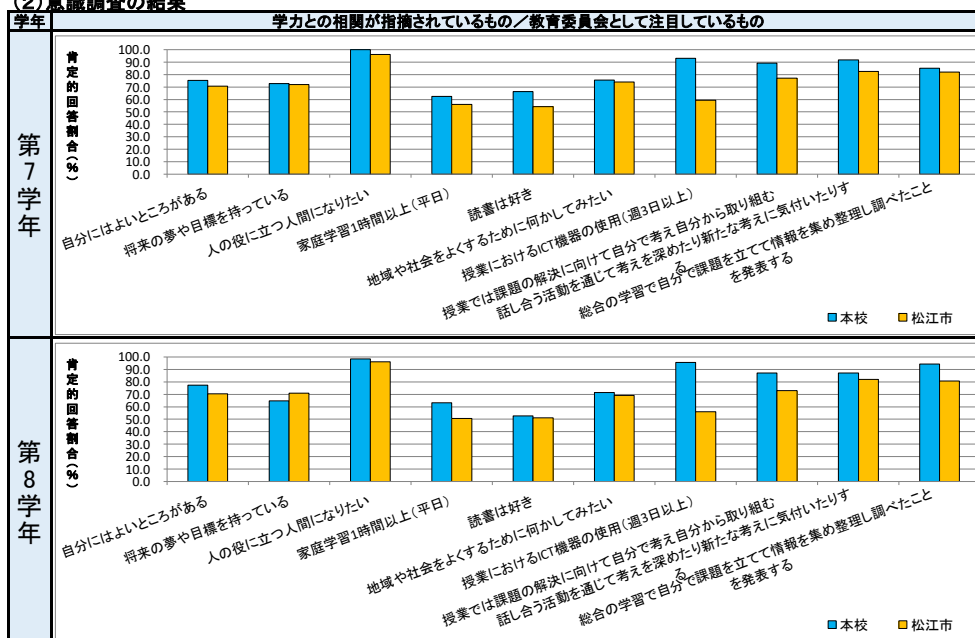


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第7学年	国語	成果 ○情報の扱い方に関する事項の問題では、市町村平均を上回った。	・歴史的仮名遣い、部首等の言語事項に関する復習を行う時間を設ける。
		課題 ●我が国の言語文化に関する事項の問題で、正答率が全国値を大きく下回る。	
	数学	成果 ○図形、関数の分野では、目標値を上回る結果であった。 ○達成率は、全ての領域で市の平均を超えている。	・既習事項の定着が悪く、練習を繰り返すことが必要だと考えられる。 ・定期的な復習をして、確認する習慣を付けさせる必要がある。
		課題 ●数と式の分野で、正答率が低く、特に一次方程式の正答率が目標より低い。	
	英語	成果 ○リスニングの正答率は高かった。 ○単語の並べ替えによる英作文での正答率が市町村平均より大きく上回った。	・英作文をする機会を授業内・宿題などで増やす必要がある。
		課題 ●場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文ともに正答率が目標より低い。	
第8学年	国語	成果 ○書くことに関する問題の正答率は高かった。	・歴史的仮名遣いについての復習をする時間を設ける。
		課題 ●言語文化に関する事項の問題での正答率が市町村平均を下回った。	
	数学	成果 ○式の計算の分野では、目標に近い正答率である。	・学習の定着が悪いので、定期的な復習や練習問題に取り組む機会を増やす。 ・基礎となる文字式の計算練習や方程式を解く練習をベースにして、全体的な単元での問題に繰り返し取り組む。
		課題 ●目標値と比べるとほとんどの分野で平均以下である。活用問題や文字式、方程式が低い傾向。	
	英語	成果 ○リスニングの正答率は高かった。 ○長文の読み取りに関わる問題での正答率が市町村平均より大きく上回った。	・基礎的な力(語彙や文法)が定着していないので、語彙学習に関する時間を増やす。 ・英作文をする機会を授業内に増やす。
		課題 ●英作文の正答率が約2割と低かった。 ●語彙の知識・理解に関わる問題での正答率が市町村平均を下回った。	

(2)意識調査の結果



<傾向と今後の対策、分析>
 成果○: 強み/伸ばしたい点 について
 課題●: 弱み/改善を要する点 について

【第7学年】
 すべての質問項目で、松江市の割合を上回っている。

【第8学年】
 多くの質問項目で、松江市の割合を上回っている。個

【R7学力調査受検者数】

第7学年	78	名
第8学年	71	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示